

ドローン導入についての考えは

市で持つ、民間業者と協定を結ぶなど、今後検討していきたい



平松 昭徳
市民クラブ

ドローン（無人航空機）の運用について

問 ドローン活用に関して市の考えは。

答 災害時の状況調査や水難救助、火災調査などの消防活動、観光、各種イベント・大会、道路・河川・建築物の調査など幅広い活用が期待できる。

問 近隣市のドローンの運用状況は。

答 豊橋市と豊川市では、平成29年度に機体を購入し、防災、消防、観光部局などの職員が隊員となり、豊橋市17名、豊川市32名で活用を進めている。

問 消防本部としてドローンの運用を検討したことは。

答 昨年度、検討した。

問 消防本部として、災害活動全般で活用していくため、どのような体制を考えたのか。

答 限られた人員の中で活動に支障の少ない形での運用体制を、操縦者育成など含め検討した。

問 ドローンを活用することによる効果は。

答 災害時に初動の対策を立てるための調査、被害状況を把握するための調査など、その他の分野でも全体概要を把握するためには効果がある。

問 ドローン導入についての考えは。

答 市で持つ方法、民間業者と協定を結んで必要な時に依頼する方法など、導入について、今後、検討していきたい。



問 ブランド認定品の認知度向上や販路拡大に関する取り組みは。

答 「たはらBサポ事業」(※)などによるメディア発信に加え、観光展など様々な機会を捉えて販売やパンフレットでの紹介を行っている。

問 認定事業の今後の方向性は。

答 商品の販路形成やブラッシュアップを支援し、田原市と田原市産品を一体的にPRすることで、シテイセールスや販路拡大に結び付けていく。

(※)「たはらBサポ事業」は「たはらブランドサポート事業。渥美半島たはらブランドに認定されている事業者と認定を目指す予定の市内の事業者を対象に、商品開発や商品改善などの相談を専門家につなぐ窓口、補助金活用の支援、プレスリリースのサポートを行うもの。」